

ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC とは

地雷廃絶を目指し、NGO ピースボートのプロジェクトとして 1998 年に設立しました。平和、人権、環境、国際交流などをテーマとしたピースボートの地球一周クルーズで、カンボジアや旧ユーゴスラビアなどを訪れ、深刻な地雷被害の状況を知ったことが設立のきっかけです。地雷による被害者は、わかっているだけで今も世界中で 1 日に 10 人（2013 年現在）。たとえ戦争が終わったと報道されていても、その地域に暮らす人々にとって、地雷がある限りまだ戦争は終わっていません。P-MAC は発足以来、地雷廃絶を目指して、地雷除去や被害者への支援、地雷問題を伝える活動を続けています。

カンボジアから地雷をなくそう 100 円キャンペーン

地雷除去には膨大な時間と労力がかかります。しかし、地雷除去にかかるコストは 1㎡あたり約 100 円です。そこで P-MAC では、募金活動「カンボジアから地雷をなくそう 100 円キャンペーン」を展開しています。集まった募金は現地地雷除去団体「CMAC（カンボジア地雷対策センター）」へ送り、地雷除去が行われています。

2013-2014 年度 100 円キャンペーン募金報告

【募金総額】

2013-2014 年度の募金総額	¥3,922,183-
2012 年度より繰越金	¥303,118-

合計	¥4,225,301-
----	-------------

【上記の募金は以下のプロジェクトに使用しました】

トロペアンクナー村地雷除去	¥2,262,657-
次回地雷除去支援への繰り越し	¥1,962,644-（2015 年度以降に支援する地雷除去と学校建設に使用）

合計	¥4,225,301-
----	-------------

地雷除去支援したシェムリアップ州トロペアンクナー村について

トロペアンクナー村があるシェムリアップ州は、世界遺産「アンコールワット」があり、周辺地域には世界中から多数の観光客が訪れ、高級ホテルやレストランが建ち並ぶ一大観光地です。同時にこの付近は、カンボジア内戦の激戦地でもあり、1998 年まで戦闘が行われていました。そのため郊外には多くの地雷や不発弾が残ったままです。

アンコールワットから 75km に位置するトロペアンクナー村のはずれには、土地を求めて移り住んだ人々が暮らしています。彼らの家は安全な土地に建っていますが、土地が狭いため、すぐ隣の地雷原に畑を作ったり、子どもたちも薪拾いのため地雷原に入らなければなりません。P-MAC は人々が地雷被害に遭うことがないように、また安全な土地で田畑をつくり、生活できるように地雷除去を支援しました。除去後の土地はそこに暮らす人々に引き渡されました。現在村人はこの土地で米や野菜を育てたり、炭焼き釜を作って炭を作り収入源としています。



写真 上：地雷除去が終わった土地で畑をつくっているレット・リンさん
下：除去後の土地には村人がつくった炭焼き窯が並んでいる

<地雷除去報告>

場所	カンボジア シェムリアップ州トロペアンクナー村 Trapeang Khna Village, Svay Leu Commune, Svay Leu District, Siem Reap Province
地雷除去期間	2013年7月1日～2013年12月24日
実施機関	CMAC 第7地域地雷除去チーム
地雷除去結果	除去面積： 102,695㎡ 対人地雷： 12個 不発弾： 33個

カンボジア王国友好勲章を受章しました

第84回ピースポート「地球一周の船旅」(2014年7月9日～2014年10月21日)は、10月12-13日にカンボジア・シアヌークビル港に入港しました。滞在中には支援を続けている地雷除去団体や現地NGOと共に友好イベントを開催しました。イベントでは、これまでのP-MACによる地雷除去支援が評価され、ピースポート地雷廃絶キャンペーンP-MAC代表など4名が「カンボジア王国友好勲章」を受章しました。この勲章は、カンボジアに対して多大な貢献をした主に外国人を対象に授与されるものです。

P-MACは1998年の発足以来2014年までに、日本全国の皆さまからお寄せいただいた募金で、カンボジアの147万㎡以上の土地の地雷除去を支援しました。これまで地雷原だった土地は小学校や保健所、田畑など、そこに暮らす人々がもっとも必要な場所に生まれ変わりました。P-MACは、今後も地雷被害の防止やカンボジアの戦後復興のため、活動を続けていきます。

障がい者への木工彫刻トレーニング

カンボジアでは人口の1-3%が障がい者だと言われています。多くが地雷や不発弾による被害者やポリオ患者です。障がい者となることでそれまでの仕事を失ったり、生まれつきの障がいのために学校へ通えないことで知識や技術を身につけることができず、仕事がないことから、多くの障がい者やその家族が貧困問題に直面しています。また、障がい者に対する差別も根強く残り、そのため引きこもりになるなど社会とのつながりを持つことも困難になっています。

P-MACでは障がい者の自立を支援するため、現地NGO「アンコール障がい者協会(AAD)※」が行なう職業訓練である木工彫刻トレーニングの資金面でのサポートを行なっています。彫刻技術のトレーニングだけでなく、住居の提供、彼らの子ども達への就学支援、収入を得るための教育などを行っています。彫刻技術を持つ障がい者が講師となり、収入を得ることに成功した障がい者と話をする機会をすることで、貧困を抜け出した将来を考えられるよう、技術だけではなく精神面でのサポートも行なわれています。

P-MACの支援により、2013年度(2013年7月～2014年6月)と2014年度(2014年7月～2015年6月)は3名の障がい者がトレーニングを受けています。

※アンコール障がい者協会 Angkor Association for the Disabled

内戦中、地雷被害に遭い両脚を失ったセム・ソワンタが2003年に設立したNGOです。障がい者の差別と貧困のサイクルに終止符を打ち、経済的・精神的な自立を通してよりよい未来をつくるため活動しています。



写真 上：彫刻トレーニングを受けるリム・リエン

下：AADスタッフと彫刻トレーニングのメンバーとその家族

地雷被害者による全国トークイベント実施

地雷被害者であり、P-MACが支援を続ける現地NGO「アンコール障がい者協会（AAD）」創設者のセム・ソワンタさんをお招きし、トークイベント「両脚をなくしたソワンタさんの挑戦～カンボジア・地雷被害者支援の現場より～」を開催しました。ソワンタさんが地雷被害に遭い、その後に自殺を考えたり物乞いを経験した中から、他の地雷被害者を支援するに至った経緯や、現在の地雷被害者が抱える問題、必要な支援について語っていただきました。



アンコール障がい者協会にて、左前方がソワンタさん

トークイベント「両脚をなくしたソワンタさんの挑戦～カンボジア・地雷被害者支援の現場より～」

目的 地雷対策の一つでありながらも現状が広まらず、支援が不足している被害者支援の重要性を日本の人々、特に若者に伝え、被害者と直接話をする場を設けることで、被害者自身が必要とする支援を探り、自ら行動に移すきっかけをつくる。

協力団体 ピースボート
アンコール障がい者協会／Angkor Association for the Disabled(AAD)
地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）

実施期間 2014年10月21日(火)～30日(木)

来場者数 合計400名

セム・ソワンタ（Sem Sovantha）プロフィール

カンボジアが内戦下にあった1990年、兵士として戦闘中に地雷被害に遭い両脚を失う。プノンペンで1年間の治療を経て退院するも、以降苦しい生活を強いられ、一時は物乞いをせざるを得ない状況にまで追い込まれる。その後、本を販売する仕事で生計を立て直し、自身と同じような苦境にある障がい者への支援活動を始める。2003年、NGO「アンコール障がい者協会（AAD）」を設立。障がい者のみならず、その家族にも支援の手を伸ばす。



トークイベントスケジュール

10月23日	ピースボート船内見学会内（横浜港）で講演
10月24日	玉川学園高等部で講演
	ピースボート船内見学会内（横浜港）で講演
	東京でトークイベント開催
10月25日	京都でトークイベント開催
10月26日	「関西・カンボジアネットワーク」で講演
	大阪でトークイベント開催
10月27日	名古屋でトークイベント開催
10月28日	ピースボート船内見学会内（名古屋港）で講演
	福岡でトークイベント開催



写真 上：地雷被害の体験を語るソワンタさん
下：名古屋でのトークイベント

セム・ソワンタさんからのメッセージ

心の中に平和をつくってください。戦争をしている国は戦争をやめてください。地雷をつくっている人たちは作るのをやめてください。そして地雷被害者への支援をしてください。復讐を考えることなく、みんなで幸せを考えていきましょう。戦争は人々への影響だけではなく、人間の尊厳、産業、インフラ、環境をも破壊します。日本は原子爆弾を落とされた国ですから、それをよく知っていますね。世界から戦争をなくすために、みんなで考えていきましょう。

カンボジアの洪水被災者への緊急食糧支援

2013年9月からカンボジアでは洪水被害が深刻となり、家屋の損壊、農地の水没等の被害をうけました。そのため、これまで貧しい生活を送ってきた人々が日々の食糧を手に入れることも困難な状況に陥りました。P-MACではカンボジア北部・シェムリアップ周辺で深刻な被害を受けた地雷被害者と貧困に苦しむ50家族に対して、洪水被害の影響から早く抜け出し、これまでの生活を取り戻せるように米などの緊急食糧支援をおこないました。



カンボジア地雷問題検証ツアー

ピースボート地球一周の船旅において、カンボジアの地雷除去現場の視察や地雷被害者との交流、地雷除去を支援した村を訪問するスタディーツアーを実施し、合計97名が参加しました。(以下は実施クルーズとツアー実施時期)

- 第79回ピースボート「地球一周の船旅」(2013年4月)
- 第80回ピースボート「地球一周の船旅」(2013年7月)
- 第81回ピースボート「地球一周の船旅」(2013年11月)
- 第83回ピースボート「地球一周の船旅」(2014年3月)
- 第84回ピースボート「地球一周の船旅」(2014年10月)



なんだろう地雷出前教室・勉強会

地雷問題を多くの人々に知ってもらおうと出前教室や勉強会を実施しました。

- カンボジアの地雷被害者による講演会「カンボジアの今、私の夢」(2013年10月)
- ふじみ野市立福岡中学校で「なんだろう地雷出前教室」(2013年10月)
- 勉強会「めざせ地雷廃絶への道～カンボジア地雷検証ツアーから見たもの」(2014年4月)
- 愛知大学国際協力サークルSEEDで地雷問題レクチャー(2014年5月)
- 勉強会「地雷のない世界を実現するには～マプト会議参加報告～」(2014年9月)
- ふじみ野市立福岡中学校で「なんだろう地雷出前教室」(2014年12月)
- 修学旅行生などの訪問学習受け入れ(通年)



イベントへのブース出展

全国各地のイベントにブース出展し、100円キャンペーン募金への協力呼びかけや地雷被害者が作成したグッズの販売をおこないました。

- フェアトレードフェスタ2013in札幌(2013年6月)/グローバルフェスタJAPAN 2013(2013年10月)/9条世界会議・関西2013(2013年10月)/ワールド・コラボ・フェス2013(2013年10月)/旅days(2013年10月)/ワン・ワールド・フェスティバル(2014年2月)/エデュコレ-多様な教育の博覧会-(2014年8月)/グローバルフェスタJAPAN2014(2014年10月)/ワン・ワールド・フェスティバル(2015年2月)



ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2013-2014年度活動報告書
発行：ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC
編集：森田幸子 発行日：2015年6月15日

[お問い合わせは下記までお願いします]
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL：03-3363-7561 FAX：03-3363-7562
E-MAIL：pmac@peaceboat.gr.jp
URL：http://peaceboat.org/projects/pmac